



# 鳥取県公報

平成 29 年 3 月 28 日 (火)  
号外第 26 号

毎週火・金曜日発行

## 目 次

◇ 条 例	鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部を改正する条例 (16) (地域振興課) . . . . . 5
	鳥取県障害福祉サービス事業に関する条例の一部を改正する条例 (17) (障がい福祉課) . . . . . 7
	鳥取県障害児通所支援事業及び障害児入所施設に関する条例の一部を改正する条例 (18) (子ども発達支援課) . . . . . 9
	鳥取県営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 (19) (住まいまちづくり課) . . . . . 10
	鳥取県企業立地等事業助成条例の一部を改正する条例 (20) (立地戦略課) . . . . . 11
	鳥取県手数料徴収条例の一部を改正する条例 (21) (会計指導課) . . . . . 13
	鳥取県警察職員定員条例の一部を改正する条例 (22) (警察本部警務課) . . . . . 18
	鳥取県病院局企業職員定数条例の一部を改正する条例 (23) (病院局総務課) . . . . . 19

## ==== 公布された条例のあらまし ====

## ◇鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

- (1) 工場立地法の一部が改正され、同法の規定に基づく県の事務が市町村の事務とされたことに伴い、所要の改正を行う。
- (2) 事務処理の効率化を図るため、市町村に移譲する事務について所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 工場立地法に係る移譲事務は、廃止する。
- (2) 次の事務は、市町村に移譲しないこととする。
  - ア 県費負担教職員に係る児童手当法に基づく事務
  - イ 鳥取県専修学校等奨学資金の貸与のための規則に基づく事務
- (3) 施行期日等
  - ア 施行期日は、平成29年7月1日とする(2)のアに関する事項を除き、同年4月1日とする。
  - イ 所要の経過措置を講ずる。

## ◇鳥取県障害福祉サービス事業に関する条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 就労継続支援A型に係る指定基準のうち、サービスの提供に当たって利用者に事前に説明すべき重要事項として次の事項を加える。
  - ア 生産活動の内容
  - イ 利用者の労働時間、賃金及び工賃
- (2) その他所要の規定の整備を行う。
- (3) 施行期日は、平成29年4月1日とする。

## ◇鳥取県障害児通所支援事業及び障害児入所施設に関する条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

児童福祉法に基づく指定通所支援事業等の人員、設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 放課後等デイサービスに係る従業員の配置について、指導員を児童指導員と改めるとともに、障害福祉サービス経験者を対象に加える。
- (2) 施行期日等
  - ア 施行期日は、平成29年4月1日とする。
  - イ 所要の経過措置を講ずる。

## ◇鳥取県営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

出産しやすい環境の整備を図るため、優先入居の対象となる者に妊婦等を追加する等所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 県営住宅に優先的に選考して入居させることができる者として、妊婦又は同居する者に妊婦がいる者を加える。

- (2) (1)に掲げる者の入居に係る収入の基準を定める。  
 (3) 施行期日は、平成29年4月1日とする。

## ◇鳥取県企業立地等事業助成条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

企業立地や雇用に関する社会情勢の変化を踏まえ、企業立地事業補助金の加算措置を見直す等所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 製造業等に係る企業立地事業のうち、常時雇用労働者が30人以上増加する場合の企業立地事業補助金について、投下固定資産額に係る補助金の補助率を100分の10（現行 20億円以下の金額については100分の10、20億円を超える金額については100分の15）とする。  
 (2) 本社機能の移転を伴う事業に対する企業立地事業補助金の加算措置を、大都市圏又は大規模災害が発生した地域若しくは発生が懸念される地域（現行 大都市圏）からの移転に拡充する。  
 (3) 著しい雇用増を伴う事業に対する企業立地事業補助金の加算措置を廃止する。  
 (4) その他所要の規定の整備を行う。  
 (5) 施行期日等  
 ア 施行期日は、平成29年4月1日とする。  
 イ 所要の経過措置を講ずる。

## ◇鳥取県手数料徴収条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律の施行等に伴い、新たに発生する事務について手数料を定める等所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 建築物エネルギー消費性能適合性判定に係る手数料を次のとおり徴収し、複合建築物の場合はそれぞれの区分の面積に応じて定める金額を合計した金額を徴収する。

区 分	標準入力法の場合	簡易評価法の場合
非住宅部分（工場等以外）	214,000円～820,000円	82,000円～409,000円
非住宅部分（工場等）	21,000円～216,000円	18,000円～207,000円

- (2) 建築物エネルギー消費性能確保計画の変更に伴う建築物エネルギー消費性能適合性判定に係る手数料について、変更後の非住宅部分（増加する部分を除く。）の床面積に2分の1を乗じて得た面積に、増加し、又は減少する非住宅部分の床面積を加えた面積に応じ、(1)に定める額を徴収する。  
 (3) 低炭素建築物新築等計画の認定に係る手数料について、非住宅部分の簡易評価法による認定をした場合の手数を次のとおり定める。

区 分	簡易評価法の場合
非住宅部分	82,000円～413,000円

- (4) 施行期日は、平成29年4月1日とする。

## ◇鳥取県警察職員定員条例の一部改正について

## 1 条例の改正理由

警察法施行令の一部が改正され、警察官の定員の基準が変更されることに伴い、警察官の定員について所要の改正を行う。

## 2 条例の概要

- (1) 警察官の定員を、1,231人（現行 1,230人）とする。  
 (2) (1)に伴い階級ごとの警察官の定員について所要の改正を行う。

(3) 施行期日は、平成29年4月1日とする。

◇鳥取県病院局企業職員定数条例の一部改正について

1 条例の改正理由

中央病院の建替えに向けた体制整備及び厚生病院の診療機能の充実強化を図るため、医師、看護師及び医療技術員等の増員を行う。

2 条例の概要

(1) 職員の定数を1,256人（現行 1,226人）に改める。

(2) 施行期日は、平成29年4月1日とする。

# 条 例

鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年 3 月 28 日

鳥取県知事 平 井 伸 治

## 鳥取県条例第16号

鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部を改正する条例

鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例（平成11年鳥取県条例第35号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線及び太枠で示すように改正する。

改 正 後		改 正 前	
別表（第2条関係）		別表（第2条関係）	
事務	市町村等	事務	市町村等
<p>1 地方自治法に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1)・(2) 略</p>	<p>各市、岩美郡岩美町、八頭郡若桜町及び八頭町、東伯郡の町並びに西伯郡の町村</p>	<p>1 児童手当法（昭和46年法律第73号）に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1) 第17条第1項の規定により読み替えて適用される第7条第1項の規定による児童手当の受給資格及び児童手当の額の認定（市町村立学校職員給与負担法（昭和23年法律第135号）第1条に規定する職員に係るものに限る。(2)において同じ。) (2) 第17条第2項において準用する第7条第3項の規定による児童手当の受給資格及び児童手当の額の認定</p>	<p>各市町村</p>
<p>略</p>		<p>1の2 地方自治法に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1)・(2) 略</p>	<p>各市、岩美郡岩美町、八頭郡若桜町及び八頭町、東伯郡の町並びに西伯郡の町村</p>
<p>24の2 計量法（平成4年法律第51号）に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1)～(7) 略</p>	<p>東伯郡三朝町</p>	<p>1の3 鳥取県専修学校等奨学資金の貸与のための規則に基づく事務のうち、別に規則で定めるもの</p>	<p>各市町村</p>
<p>略</p>		<p>略</p>	
<p>24の2 計量法（平成4年法律第51号）に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1)～(7) 略</p>	<p>東伯郡三朝町</p>	<p>24の2 計量法（平成4年法律第51号）に基づく事務のうち、次に掲げるもの (1)～(7) 略</p>	<p>東伯郡三朝町</p>
<p>略</p>		<p>24の3 工場立地法（昭和34年法律第24号）に基づく事務のうち、次に掲げるもの</p>	<p>岩美郡岩美町及び</p>

		もの	西伯郡大
		(1) 第6条第1項及び第7条第1項の規定による特定工場の新設等の届出の受理	山町
		(2) 第8条第1項の規定による特定工場の変更の届出の受理	
		(3) 第9条第1項及び第2項の規定による必要な事項の勧告	
		(4) 第10条第1項の規定による勧告に係る事項の変更の命令	
		(5) 第11条第2項の規定による期間の短縮	
		(6) 第12条の規定による氏名等の変更の届出の受理	
		(7) 第13条第3項の規定による地位の承継の届出の受理	
24の3	略	24の4	略
24の4	略	24の5	略
24の5	略	24の6	略
24の6	略	24の7	略
	略		略

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。ただし、別表1の項を削り、同表1の2の項を同表1の項とする改正規定並びに次項及び附則第3項の規定は、同年7月1日（以下「一部施行日」という。）から施行する。

(経過措置)

2 一部施行日前にされた請求に対する改正前の鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例（以下「旧条例」という。）別表1の項に掲げる認定（次項において「認定」という。）については、なお従前の例による。

3 一部施行日前に旧条例の規定に基づき市町村長又はその委任を受けた者がした認定は、改正後の鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の規定にかかわらず、県がした認定とみなす。前項の規定により市町村長又はその委任を受けた者がする認定についても、同様とする。

鳥取県障害福祉サービス事業に関する条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

**鳥取県条例第17号**

鳥取県障害福祉サービス事業に関する条例の一部を改正する条例

鳥取県障害福祉サービス事業に関する条例（平成24年鳥取県条例第71号）の一部を次のように改正する。  
次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後			改 正 前		
別表第8（第20条関係）			別表第8（第20条関係）		
区分	最低基準	指定基準	区分	最低基準	指定基準
略			略		
サー ビス の開 始	略	1 略 2 サービスの提供を開始するときは、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、次に掲げる事項を記載した書面を交付して説明を行い、利用申込者の同意を得ること。 (1)～(4) 略 (5) サービスの内容（ <u>生産活動に係るものを除く。</u> ）並びに利用者から受領する費用の種類及びその額 (6) サービスの内容（ <u>生産活動に係るものに限る。</u> ）並びに <u>利用者の労働時間、賃金及び工賃</u> (7) 略 (8) 略 (9) 略 (10) 略 (11) 略 (12) 略	サー ビス の開 始	略	1 略 2 サービスの提供を開始するときは、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、次に掲げる事項を記載した書面を交付して説明を行い、利用申込者の同意を得ること。 (1)～(4) 略 (5) サービスの内容並びに利用者から受領する費用の種類及びその額 (6) 略 (7) 略 (8) 略 (9) 略 (10) 略 (11) 略

		(13) 略			(12) 略
		(14) 略			(13) 略
略			略		
サー ビス の提 供	1～3 略 4 サービスの開始 の項の右欄第2号 (1)から(12)まで に掲げる事項その 他運営に関する重 要事項についての 規程を定めるこ と。 5・6 略	略	サー ビス の提 供	1～3 略 4 サービスの開始 の項の右欄第2号 (1)から(11)まで に掲げる事項その 他運営に関する重 要事項についての 規程を定めるこ と。 5・6 略	略
略			略		

附 則

この条例は、平成29年4月1日から施行する。



鳥取県障害児通所支援事業及び障害児入所施設に関する条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

**鳥取県条例第18号**

鳥取県障害児通所支援事業及び障害児入所施設に関する条例の一部を改正する条例

鳥取県障害児通所支援事業及び障害児入所施設に関する条例（平成24年鳥取県条例第81号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後		改 正 前	
別表第1（第6条関係）		別表第1（第6条関係）	
1・2 略		1・2 略	
3 放課後等デイサービス		3 放課後等デイサービス	
区分	基準	区分	基準
従業者の配置	1 次に掲げる従業者を置くこと。 (1) 略 (2) <u>児童指導員、保育士又は障害福祉サービス事業に従事した経験を有する者であって規則で定めるもの（以下「障害福祉サービス経験者」という。）</u> (3)・(4) 略 2・3 略 4 <u>児童指導員、保育士又は障害福祉サービス経験者のうち1人以上は、常勤であること。</u> 5～8 略	従業者の配置	1 次に掲げる従業者を置くこと。 (1) 略 (2) <u>指導員又は保育士</u>  (3)・(4) 略 2・3 略 4 <u>指導員又は保育士のうち1人以上は、常勤であること。</u> 5～8 略
略		略	

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に指定を受けている指定放課後等デイサービス事業者については、この条例による改正後の別表第1の3の表従業者の配置の項右欄の規定にかかわらず、平成30年3月31日までの間は、なお従前の例による。

鳥取県営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

**鳥取県条例第19号**

鳥取県営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

鳥取県営住宅の設置及び管理に関する条例（昭和34年鳥取県条例第49号）の一部を次のように改正する。  
次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>(入居者の資格)</p> <p>第5条 県営住宅に入居することができる者は、次の各号（被災市街地復興特別措置法（平成7年法律第14号）第21条に規定する者にあつては、第1号、第3号及び第4号）の条件を備えている者とする。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) その者の収入がア、イ又はウに掲げる場合に 応じ、それぞれア、イ又はウに掲げる金額を超えないこと。</p> <p>ア 次のいずれかに該当する場合 21万4千円 (ア)～(カ) 略</p> <p><u>(キ) その者が妊婦であり、又は同居する者に妊婦がいること。</u></p> <p>イ・ウ 略</p> <p>(3)・(4) 略</p> <p>2・3 略</p> <p>(入居者の選考)</p> <p>第7条 略</p> <p>2・3 略</p> <p>4 知事は、第1項に規定する者のうち次に掲げる者については、前2項の規定にかかわらず、県営住宅に優先的に選考して入居させることができる。</p> <p>(1)～(13) 略</p> <p><u>(14) 妊婦又は同居する者に妊婦がいる者</u></p>	<p>(入居者の資格)</p> <p>第5条 県営住宅に入居することができる者は、次の各号（被災市街地復興特別措置法（平成7年法律第14号）第21条に規定する者にあつては、第1号、第3号及び第4号）の条件を備えている者とする。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) その者の収入がア、イ又はウに掲げる場合に 応じ、それぞれア、イ又はウに掲げる金額を超えないこと。</p> <p>ア 次のいずれかに該当する場合 21万4千円 (ア)～(カ) 略</p> <p>イ・ウ 略</p> <p>(3)・(4) 略</p> <p>2・3 略</p> <p>(入居者の選考)</p> <p>第7条 略</p> <p>2・3 略</p> <p>4 知事は、第1項に規定する者のうち次に掲げる者については、前2項の規定にかかわらず、県営住宅に優先的に選考して入居させることができる。</p> <p>(1)～(13) 略</p>

附 則

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

鳥取県企業立地等事業助成条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

鳥取県条例第20号

鳥取県企業立地等事業助成条例の一部を改正する条例

鳥取県企業立地等事業助成条例（平成25年鳥取県条例第8号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後				改 正 前			
別表第1（第3条、第5条関係）				別表第1（第3条、第5条関係）			
事業の区分		認定要件	補助金の額	事業の区分		認定要件	補助金の額
企 業 立 地 事 業	第2条 第2号 アに掲 げる事 業	略	(1) 略  (2) 特定製造業以外の 事業で常時雇用労働者 が30人以上増加する場 合にあっては、次に掲 げる額の合計額（30億 円を限度とする。） ア 投下固定資産額に <u>100分の10</u> を乗じて得 た金額  イ 略 (3) 略	企 業 立 地 事 業	第2条 第2号 アに掲 げる事 業	略	(1) 略  (2) 特定製造業以外の 事業で常時雇用労働者 が30人以上増加する場 合にあっては、次に掲 げる額の合計額（30億 円を限度とする。） ア 投下固定資産額を <u>次に掲げる金額に区 分してそれぞれの金 額にそれぞれに掲げ る割合を乗じて得た 金額を合計した金額</u> (ア) <u>20億円以下の 金額 100分の10</u> (イ) <u>20億円を超え る金額 100分の15</u>  イ 略 (3) 略
	略		略				
略				略			
備考 略				備考 略			
別表第2（第5条関係）				別表第2（第5条関係）			
略		略		略		略	
3	次のいずれかに 該当する事業で あって、知事が特 に認めるもの（2 の項に該当するも のを除く。） (1)・(2) 略	略		3	次のいずれかに 該当する事業で あって、知事が特 に認めるもの（2 の項に該当するも のを除く。） (1)・(2) 略 (3) <u>著しい雇用</u>	略	

			の増加を伴う事業
略		略	略
7 大都市圏（首都圏、近畿圏及び中部圏のうち知事が要綱で定める地域をいう。）又は5の項左欄に掲げる地域からの本社機能の移転を伴う事業であって、知事が特に認めるもの（5の項又は8の項に該当するものを除く。）	略	7 大都市圏（首都圏、近畿圏及び中部圏のうち知事が要綱で定める地域をいう。）からの本社機能の移転を伴う事業であって、知事が特に認めるもの（8の項に該当するものを除く。）	略
略		略	略

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この条例の施行の日前に鳥取県企業立地等事業助成条例第3条第1項の知事の認定を受けた企業立地事業に係る企業立地事業補助金については、なお従前の例による。

鳥取県手数料徴収条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

**鳥取県条例第21号**

鳥取県手数料徴収条例（平成12年鳥取県条例第37号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線及び太枠で示すように改正する。

改 正 後			改 正 前		
<p>(手数料の徴収)</p> <p>第2条 次の各号に掲げる事務については、申請その他の行為により当該事務をすることを求める者から、当該各号の事務に応じて別に定める期限までに、当該各号に定める額の手数料を徴収する。</p> <p>(1)～(315の4) 略</p> <p>(315の5) 都市の低炭素化の促進に関する法律（平成24年法律第84号。以下「低炭素化促進法」という。）第54条第1項の規定に基づく低炭素建築物新築等計画の認定 次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額（同条第2項の規定により建築基準法第6条第1項に規定する建築基準関係規定に適合するかどうかの審査を受けるよう申出があった場合は、その額に鳥取県建築基準法施行条例別表第3の1の項に定める金額を加算した額）</p> <p>ア 略</p> <p>(ア)・(イ) 略</p> <p>(ウ) 住宅の用に供する部分以外の部分(以下「非住宅部分」という。) 次の表の左欄に掲げる非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額</p>			<p>(手数料の徴収)</p> <p>第2条 次の各号に掲げる事務については、申請その他の行為により当該事務をすることを求める者から、当該各号の事務に応じて別に定める期限までに、当該各号に定める額の手数料を徴収する。</p> <p>(1)～(315の4) 略</p> <p>(315の5) 都市の低炭素化の促進に関する法律（平成24年法律第84号。以下「低炭素化促進法」という。）第54条第1項の規定に基づく低炭素建築物新築等計画の認定 次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額（同条第2項の規定により建築基準法第6条第1項に規定する建築基準関係規定に適合するかどうかの審査を受けるよう申出があった場合は、その額に鳥取県建築基準法施行条例別表第3の1の項に定める金額を加算した額）</p> <p>ア 略</p> <p>(ア)・(イ) 略</p> <p>(ウ) 住宅の用に供する部分以外の部分(以下「非住宅部分」という。) 次の表の左欄に掲げる非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額</p>		
	金額			金額	
区分	適合証の添付がない場合	適合証の添付がある場合	区分	適合証の添付がない場合	適合証の添付がある場合
300平方メートル以下	1件につき224,000円 <u>（簡易な評価方法として知事が定める方法によって認定する場合（以下この号、第315号の7から第315号の9まで及び第315号の11において「簡易評価法の場合」という。）は、82,000円）</u>	1件につき9,000円	300平方メートル以下	1件につき224,000円	1件につき9,000円
300平方	1件につき358,000	1件につき27,000	300平方	1件につき358,000	1件につき27,000

メートルを超え、2,000平方メートル以下	円(簡易評価法の場合は、139,000円)	円
2,000平方メートルを超え、5,000平方メートル以下	1件につき509,000円(簡易評価法の場合は、224,000円)	1件につき76,000円
5,000平方メートルを超え、10,000平方メートル以下	1件につき623,000円(簡易評価法の場合は、292,000円)	1件につき120,000円
10,000平方メートルを超え、25,000平方メートル以下	1件につき737,000円(簡易評価法の場合は、352,000円)	1件につき153,000円
25,000平方メートル超	1件につき841,000円(簡易評価法の場合は、413,000円)	1件につき190,000円

イ～エ 略  
(315の6) 略

(315の7) 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(平成27年法律第53号。以下「建築物省エネ法」という。)第12条第1項又は第13条第2項の規定に基づく建築物エネルギー消費性能確保計画に係る建築物エネルギー消費性能適合性判定 次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額

ア 工場等(工場その他知事が定める建築物をいう。以下この号及び次号において同じ。)でない非住宅部分及び工場等である非住宅部分を有する建築物の新築に係るもの 次の(ア)及び(イ)に定める額を合計した額

(ア) 次の表の左欄に掲げる工場等でない非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

区分	金額
1 300平方メートル未	1件につき214,000円

メートルを超え、2,000平方メートル以下	円	円
2,000平方メートルを超え、5,000平方メートル以下	1件につき509,000円	1件につき76,000円
5,000平方メートルを超え、10,000平方メートル以下	1件につき623,000円	1件につき120,000円
10,000平方メートルを超え、25,000平方メートル以下	1件につき737,000円	1件につき153,000円
25,000平方メートル超	1件につき841,000円	1件につき190,000円

イ～エ 略  
(315の6) 略

満	(簡易評価法の場合 は、82,000円)
2 300平方メートル以 上、2,000平方メー トル未満	1 件につき346,000円 (簡易評価法の場合 は、137,000円)
3 2,000平方メートル 以上、5,000平方メー トル未満	1 件につき493,000円 (簡易評価法の場合 は、222,000円)
4 5,000平方メートル 以上、10,000平方メ ートル未満	1 件につき608,000円 (簡易評価法の場合 は、290,000円)
5 10,000平方メー トル以上、25,000平方 メートル未満	1 件につき718,000円 (簡易評価法の場合 は、348,000円)
6 25,000平方メー トル以上	1 件につき820,000円 (簡易評価法の場合 は、409,000円)

(イ) 次の表の左欄に掲げる工場等である非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

区分	金額
1 300平方メートル未 満	1 件につき21,000円 (簡易評価法の場合 は、18,000円)
2 300平方メートル以 上、2,000平方メー トル未満	1 件につき40,000円 (簡易評価法の場合 は、35,000円)
3 2,000平方メートル 以上、5,000平方メー トル未満	1 件につき96,000円 (簡易評価法の場合 は、89,000円)
4 5,000平方メートル 以上、10,000平方メ ートル未満	1 件につき141,000円 (簡易評価法の場合 は、134,000円)
5 10,000平方メー トル以上、25,000平方 メートル未満	1 件につき175,000円 (簡易評価法の場合 は、167,000円)
6 25,000平方メー トル以上	1 件につき216,000円 (簡易評価法の場合 は、207,000円)

イ 工場等でない非住宅部分を有する建築物の新築に係るもの(アに掲げるものを除く。) アの(ア)に定める額

ウ 工場等である非住宅部分を有する建築物の新築に係るもの(アに掲げるものを除く。) アの(イ)に定める額

エ 建築物の非住宅部分の増築又は改築に係るもの  
次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額

(ア) 工場等でない非住宅部分及び工場等である非住宅部分の増築又は改築に係るもの 次の a 及び b に定める額を合計した額

a アの(ア)の表の左欄に掲げる知事が定める方法によって算定した工場等でない非住宅部分の判定すべき面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

b アの(イ)の表の左欄に掲げる知事が定める方法によって算定した工場等である非住宅部分の判定すべき面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

(イ) 工場等でない非住宅部分の増築又は改築に係るもの（(ア)に掲げるものを除く。）

(ア)の a に定める額

(ウ) 工場等である非住宅部分の増築又は改築に係るもの（(ア)に掲げるものを除く。）

(ア)の b に定める額

(315の8) 建築物省エネ法第12条第2項又は第13条第3項の規定に基づく建築物エネルギー消費性能確保計画の変更に係る建築物エネルギー消費性能適合性判定及び建築物省エネ法第12条第2項の国土交通省令で定める軽微な変更該当していることを証する書面の交付 次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額

ア 工場等でない非住宅部分及び工場等である非住宅部分を有する建築物に係るもの 次の(ア)及び(イ)に定める額を合計した額

(ア) 前号アの(ア)の表の左欄に掲げる変更後の工場等でない非住宅部分（増加する部分を除く。）の床面積に2分の1を乗じて得た面積に、増加し、又は減少する工場等でない非住宅部分の床面積を加えた面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

(イ) 前号アの(イ)の表の左欄に掲げる変更後の工場等である非住宅部分（増加する部分を除く。）の床面積に2分の1を乗じて得た面積に、増加し、又は減少する工場等である非住宅部分の床面積を加えた面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

イ 工場等でない非住宅部分を有する建築物に係るもの（(ア)に掲げるものを除く。） アの(ア)に定める額



ウ 工場等である非住宅部分を有する建築物に係るもの（アに掲げるものを除く。） アの（イ）に定める額

(315の9) 建築物省エネ法第30条第1項の規定に基づく建築物エネルギー消費性能向上計画の認定次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額（同条第2項の規定により建築基準法第6条第1項に規定する建築基準関係規定に適合するかどうかの審査を受けるよう申出があった場合は、その額に鳥取県建築基準法施行条例別表第3の1の項に定める金額を加算した額）

ア 略

(ア) 略

(イ) 次の表の左欄に掲げる非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

区分	金額	
	適合証の添付がない場合	適合証の添付がある場合
1 300 平方メートル未満	1件につき208,000円（ <u>簡易評価法の</u> 場合は、80,000円）	1件につき9,000円
2～6	略	略

イ・ウ 略

(315の10) 略

(315の11) 略

(316)～(328) 略

2 略

(315の7) 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（平成27年法律第53号。以下「建築物省エネ法」という。）第30条第1項の規定に基づく建築物エネルギー消費性能向上計画の認定次に掲げる区分に応じ、それぞれに定める額（同条第2項の規定により建築基準法第6条第1項に規定する建築基準関係規定に適合するかどうかの審査を受けるよう申出があった場合は、その額に鳥取県建築基準法施行条例別表第3の1の項に定める金額を加算した額）

ア 略

(ア) 略

(イ) 次の表の左欄に掲げる非住宅部分の床面積の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額

区分	金額	
	適合証の添付がない場合	適合証の添付がある場合
1 300 平方メートル未満	1件につき208,000円（ <u>簡易な評価方法として知事が定める方法によって認定する場合（以下この号及び第315号の9において「簡易評価法の場合」という。）</u> は、80,000円）	1件につき9,000円
2～6	略	略

イ・ウ 略

(315の8) 略

(315の9) 略

(316)～(328) 略

2 略

附 則

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

鳥取県警察職員定員条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年3月28日

鳥取県知事 平 井 伸 治

鳥取県条例第22号

鳥取県警察職員定員条例の一部を改正する条例

鳥取県警察職員定員条例（昭和32年鳥取県条例第14号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線及び太枠で示すように改正する。

改 正 後			改 正 前		
(定員) 第2条 職員の定員は、次に掲げるとおりとする。ただし、第1号アからウまでに規定する階級の警察官の人員がこれらの規定に規定する定員に満たない場合においては、その満たない人数を当該階級より下位の階級の警察官の定員に加えることができる。 (1) 警察官 <u>1,217人</u> ア 警視 <u>63人</u> イ 略 ウ 警部補・巡査部長 <u>673人</u> エ 巡査（警察教養施設において新任者として教育訓練中のものを含む。） <u>353人</u> (2) 略 2・3 略  附 則 1～3 略 4 第2条第1項の規定の適用については、当分の間、次の表の左欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。			(定員) 第2条 職員の定員は、次に掲げるとおりとする。ただし、第1号アからウまでに規定する階級の警察官の人員がこれらの規定に規定する定員に満たない場合においては、その満たない人数を当該階級より下位の階級の警察官の定員に加えることができる。 (1) 警察官 <u>1,213人</u> ア 警視 <u>62人</u> イ 略 ウ 警部補・巡査部長 <u>671人</u> エ 巡査（警察教養施設において新任者として教育訓練中のものを含む。） <u>352人</u> (2) 略 2・3 略  附 則 1～3 略 4 第2条第1項の規定の適用については、当分の間、次の表の左欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。		
第2条第1項第1号	<u>1,217人</u>	<u>1,231人</u>	第2条第1項第1号	<u>1,213人</u>	<u>1,230人</u>
略			第2条第1項第1号ア	<u>62人</u>	<u>63人</u>
第2条第1項第1号ウ	<u>673人</u>	<u>682人</u>	第2条第1項第1号ウ	<u>671人</u>	<u>681人</u>
第2条第1項第1号エ	<u>353人</u>	357人	第2条第1項第1号エ	<u>352人</u>	357人
略			略		

附 則

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

鳥取県病院局企業職員定数条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成29年 3 月 28 日

鳥取県知事 平 井 伸 治

### 鳥取県条例第23号

鳥取県病院局企業職員定数条例の一部を改正する条例

鳥取県病院局企業職員定数条例（平成18年鳥取県条例第13号）の一部を次のように改正する。

次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に、下線で示すように改正する。

改 正 後	改 正 前
(定数) 第 2 条 職員の定数は、 <u>1,256人</u> とする。 2 略	(定数) 第 2 条 職員の定数は、 <u>1,226人</u> とする。 2 略

#### 附 則

この条例は、平成29年 4 月 1 日から施行する。